２０２３年度　学校関係者評価委員会の報告書

１．目的：学校評価を通じた組織的、継続的な教育活動の改善
　　地域連携・協力による特色のある学校づくりの推進

２．内容：学校の教職員が学校の理念、目標に照らして自ら教育活動について
　　行った評価結果を基本として評価を行う・

３．メンバー
事務局（遠藤学校長・清水副会長・渡邉担当理事・大澤事務局長・池田副学校長）
実習施設（3 施設）―看護局長（部長）
久米田看護専門学校―副学校長
同窓会会長（卒業生代表）

４．今年度の実施状況
第 1 回目―5 月 17 日（水）
　　２０２２年度学校関係者評価委員会の報告書（HP 掲載）
　　1 年の流れ「学校の年間スケジュール」
　　国家試験対策
　　卒業生のアンケート結果
　　今年度の重点目標
第 2 回目―9 月 27 日（水）
　　今、教育現場で起こっていること
　　新卒者および卒後 1 年～3 年目の臨床現場の教育内容からいえること
第 3 回目―2 月 21 日（水）
　　今年度の自己点検自己評価結果
　　次年度に向けての課題
　　国家試験終了後の学生の状況

５．まとめ
今年度は、募集停止から一転しての再開となり、教職員はモチベ―ションを上げる努力をすることで、学校運営について不安もありながら改めて考えていた。
① 教育理念・目的・育成人材像
理念などの達成に向けた教育活動に取り組めた状況に変わりはないが、社会のニーズに答えられる人材を育てようと将来構想を定め、各専門分野の特性を明示し柔軟な職業訓練を展開できる強みを、十分に活かせているとは考えにくい。
改めて、学校の 3～5 年程度先のあるべき姿を思い描き、将来構想を周知していく必要がある。
② 学校運営
学校運営に携わる職員として業務改善に取り組み、各々の役割を果たすべく努力を重ねてきている。
今年度は、閉校や学校存続に関する情報がタイミングよく伝えられなかったことで一時期モチベーションが低下した。
しかし、新入生を迎えるにあたって職員の面談などもあり、各々学校運営に積極的に臨めるようになった。

③ 教育活動

教育目的・目標に沿った教育課程を編成し、成績評価の基準を適切に運営するために、会議で客観性・統一性の確保に取り組み、新カリキュラムにおいては、再度諸規定の見直し等を行い学生のレディネスに沿うように考えている。しかし今年度は基準に満たない学生が多く出た。

また、メンタルが弱くすぐに身体症状が出てしまう。

簡単に学習をあきらめてしまう学生も多くなってきている。

教職員に関しては、学科毎の連携・協力体制の構築、授業内容・教育方法の改善にについて組織的に取り組むための時間の不足、余裕がないことが評価結果に影響している。

④ 学習支援

学生の生活指導、保護との連携には、副学校長および教務主任を中心に相談体制がとられている。予想もしていなかった学習量や費やされる学習時間の中で追いつかない学生に対しては､科目担当教員や学習支援の教員が関わり、学習意欲が持ち続けられるよう個別指導する時間を作っている。

今後も、学校全体として相談体制を整備し、退学に結び付きやすい心理面、学習面の問題解決には適切に対応していく。

⑤ 学生の募集と受け入れ

今年の入試選考は、準備期間も短く、広報活動・学生募集活動を行うには純分な時間がなかったが、定められて規定に基づいて運用し、時間をかけ公平性のある合否判定体制ができていた。

⑥ 社会貢献・地域貢献

学生は、地域・在宅看護論実習で初めて社旗を体験している。

その学習成果が社会に還元できるよう、今後は縦割り活動に教員も加わり、意義のある社会貢献行えるよう教育的関わりを継続していく。

⑦ 学校関係者評価委員会・委員から

・学習支援をしっかりされていることは理解できた、言い換えれば学習レベルの低い学生が多くいるということあり､現場はしっかりそのことを受けとめないといけない。

・現場で先生方を拝見していて、学生は成長しているが教員の自己肯定感が低いように思う。

いつも疲れた感じがする

・現場でも身体症状の出るスタッフが多くなってきている。何とかしてあげたいと思うが、どうもできない。

学生の時から身体症状が出る学生は､社会人としてどうかという戸惑いもある。

・非常勤講師を多く出しているが､講師は自分の講義の振り返りをしているが、寝ている学生、ペットボトルを机の上に置いている学生、他のことをしている学生がいる。

それで良いのか

・幼い学生が多く、学習を積んでも社会人としての自覚が育っていかない

・学生はやらされている感じが強ければ意味がない

１年次から、目的、目標を持つことがいア k に大事かを学生としっかりやり取りすることが大切

人間は意欲を反映していけば利用を現実にしたくなる。

・教員が元気ない､お手本がよくないと学生も育たない｡(教員を元気にする)

⑧ 卒業生の就職状況（３１名卒業）

岸和田市内―１８名（実習施設への就職）
泉州地域　―１３名
堺―　６名
和泉―　４名
貝塚―　１名
泉佐野―　２名

⑨ 次年度の課題

まずは教員が元気で楽しい学校にすることを目標に掲げたい。

学生のできないことを嘆くのではなく、教員自身が看護師としてこうあってほしいをということをしっかり持ってあきらめずに伝え続けること、学生の反応に一喜一憂せず向き合えるようにしていきたい。

今年度は、大阪府看護学校協議会で管理運営委員会でも、教員の質向上委員会のプロジェクトチームがあり各学校を訪問しどのような取り組みが行われているか、学生及び教員の心理的安全性について学習した。

その学習から、教員も学生も自分自身が安心できる環境に身を置かないと主体的に学習はできない。ここで、今自分の意見を言っていいと思わせること、意見はみんなちがってよいことを伝え、楽しい学校にしていきたい。